



経営戦略室 矢島 様

講話内容

- ・ 地域企業における DX の取組
- ・ 2/17 の振り返り（会社概要、前回ワークシートへの補足等）、アイスブレイクなど

学生のワークシートから抜粋

【わかったこと等】

- ・ 設立は 1918 年で、本社は上田市にあり海外にも拠点を置いている。
- ・ お客様の要望に合わせ、製品を設計、組立、評価をし、お客様に寄りそっている。
- ・ ASPINA が達成したいことは、世界中の人々の希望と快適をカタチにしていくこと。それをするために、技術で世界の未来を描き、人々の心を動かしたい。
- ・ 他企業の開発を協力して行ってくれる企業。ニーズに合わせた製品を一緒に考えてくれる。
- ・ 社名とブランド名（ASPINA）が違う。社名とブランド名が違う企業は他にもあった。
- ・ 人工衛星向けリアクションホイールの開発をしている。
- ・ 駅のホームのドアに使われるモータも作っている。
- ・ ASPINA の製品は、呼吸器系治療器にも使われている。
- ・ 物事の考えは「常に目指すもの、大切に続けるもの」と「時代に合わせて柔軟に変化させていくもの」の 2 つに分けられる。
- ・ ゴールが分かっていると成果を上げることは難しい。
- ・ 組織や社員のあるべき姿を「言語化」することが大事（目標、ミッション、ビジョンなど目指すものを言語化）
- ・ ただ注文を受けて製造するだけでなく、お客様と同じ観点で一緒に考え、開発している。だから信用・信頼される会社になっていると分かった。
- ・ 普段自分たちが生活しているところで ASPINA のモータがたくさん使われているのは、ASPINA が色々な人から信頼されているからだということが分かった。

【考えたこと、感想等】

- ・組織のあるべき姿を言語化することは、大切だと思った。
- ・ビジョンを言語化しないと進むべき方向が分からなくなってしまうため、ゴールを決めることは大切だと思った。
- ・1回目の自分たちの考えや思ったことをふまえながらお話してくださり、復習にもなったし、分かりやすかった。
- ・ゴールがないと、何をやるにしても難しいことだと思った。
- ・日本だけでなく世界にも販売拠点を築いていて、とてもすごいと思った。
- ・大きな目標を立て、それに向けていろいろなことを考えたり、やる、というのは学校生活でも色々な所に活かせると思うので頭の中に置いておきたい。
- ・お客様の要望に合ったモータ作りをしているところがすごかった。
- ・海外でも ASPINA の製品が採用されており、とても信用されていると感じた。
- ・モータ事業で工業製品だけでなく、医療機器や宇宙事業など幅広く扱っていてとてもすごいと思った。
- ・モータは欠かせないものなので、事業も安定していて良いなと思った。
- ・アイスブレイク（何のキャラクターの顔かは示されず、顔のパーツの特徴のみ伝えられて描いてみる体験）では、顔が全然描けなかったので、目標があるかないかでは、結果がとても違うと思いました。
- ・（アイスブレイクを通して）進む方向が分からないと、何事も難しいと思った。
- ・自分も何かを決めるときは、目標を立てて考えようと思った。
- ・お客さんに寄り添って製品を作る会社が成長できるのだなと思った。